

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

果樹カメムシ類の発生状況と対策について

果樹カメムシ類の4月～8月までの発生量については、本年の越冬密度が平年並であったことから、平年並で、前年より多いと予想しています（[平成26年4月25日付け病害虫発生予察予報第1号（5月の予報）](#)）。

気温の上昇に伴い、5月第2半旬頃から一部の果樹園では果樹カメムシ類（特に、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ等）の飛来が見られています。飛来が確認される園については、下記事項を参考に防除対策を行ってください。

記

1. 発生概況

- 1) 5月第1～3半旬のフェロモントラップ、予察灯による誘殺数は平年並で推移している（図1及び2）。
- 2) 開花中のカンキツにおいて、カメムシ類（主にツヤアオカメムシ）が飛来している園が見られる（表1）
- 3) ナシ、ウメなどの樹種でもカメムシ類が飛来している園が一部で確認されている。

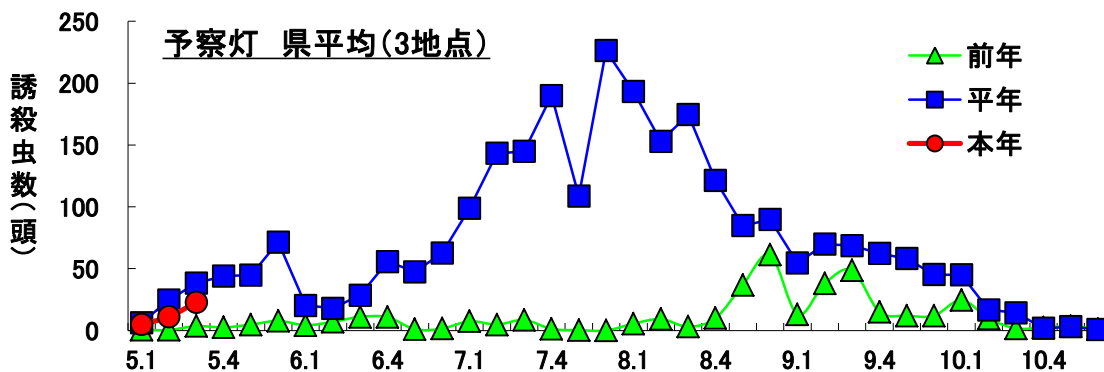


図1 予察灯によるカメムシ類誘殺数の半旬別推移
(本年の5月第1～3半旬は、県内2地点における誘殺数の平均)

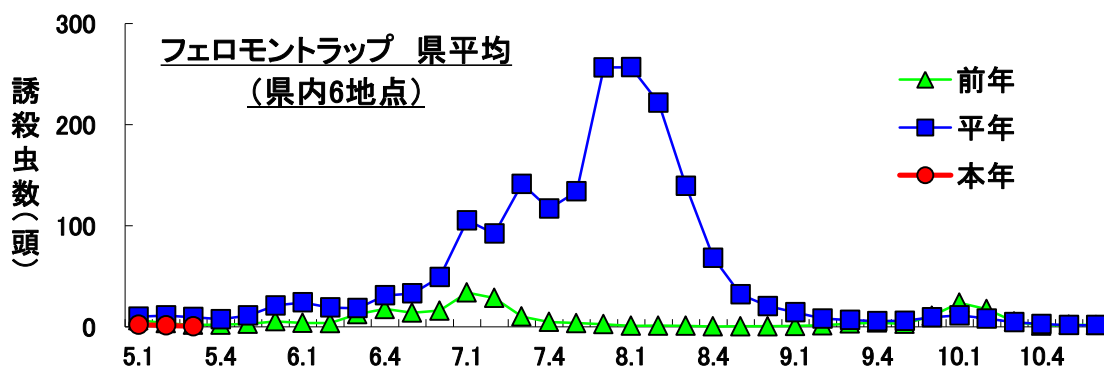


図2 フェロモントラップ（県内6地点）によるカメムシ類誘殺数の半旬別推移
(本年の5月第1～3半旬は、県内4地点における誘殺数の平均)

表 1 開花期のカンキツにおける果樹カメムシ類の寄生状況

園NO.	品種	寄生虫数(頭)			合計
		チャバネアオカメムシ	ツヤアオカメムシ	クサギカメムシ	
園1	極早生温州	1 頭	2 頭	0 頭	3 頭
園2	極早生温州	1	1	0	2
園3	早生温州	2	2	0	4
園4	早生温州	3	4	1	8
園2	普通温州	1	3	0	4
園3	普通温州	0	1	0	1
園4	中晩柑	1	3	0	4

注)果樹試験場調査(5月2半旬)、各樹50枝調査

2. 防除対策

- 1) 飛来状況は地域や園地により異なるため、園内外をこまめに見回り早期発見に努める。
- 2) 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来して、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪定する。
- 3) カメムシ類は、果樹園へ侵入した後、集合フェロモンで同種を大量に誘引し被害を及ぼす。このため、果樹カメムシ類の果樹園への飛来を認めたら、次に掲げる事項も参考にして、殺虫効果・吸汁阻止効果が高い合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤による初期防除を徹底する(表2)。
- 4) カンキツ類では特に、開花期の飛来に注意し、飛来を認めたら防除を行う。防除薬剤は、訪花害虫やアザミウマ類の発生状況に応じて表2から選択する。
- 5) 施設栽培では、開口部に防虫ネット(4ミリ目以下)を設置する。
- 6) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、使用基準を遵守する。
- 7) カメムシ類の発生量と果樹園への飛来時期については、農業技術防除センターが発表するカメムシ情報(6~10月、ホームページ「<http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo>」を参考にする。

表2 果樹カメムシ類に登録のある主要薬剤

【カンキツ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	カメムシ以外の害虫に対する適用		備考
					訪花害虫	アザミウマ	
材コ チノイ ト	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	コアハナムケリ ケシスイ類	アザミウマ類	かんきつ で登録
	アドマイヤーフロアブル	2000~5000倍	収穫14日前まで	3回以内		チャノキイロアザミウマ	
	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内		チャノキイロアザミウマ	
合成ビ スロイ ト	テルスター水和剤	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内	—	チャノキイロアザミウマ	かんきつ
	マブリック水和剤20	2000~4000倍	収穫45日前まで	2回以内	コアハナムケリ ケシスイ類	チャノキイロアザミウマ	かんきつ (みかんを除く)
			収穫21日前まで				みかん
	MR. ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	—	チャノキイロアザミウマ	かんきつ
ロディー乳剤	2000倍	収穫7日前まで	4回以内	コアハナムケリ ケシスイ類	チャノキイロアザミウマ	かんきつ	
合成ビ スロイ ト・カ バメ ート	マブリックナック水和剤	1000~1500倍	収穫200日前まで	2回以内	コアハナムケリ ケシスイ類	チャノキイロアザミウマ	なつみかん
		1000~1500倍	収穫21日前まで				みかん

【ナシ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ビ スロイ ト	アグロスリン水和剤	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	1500倍	収穫前日まで	5回以内
	テルスター水和剤	1000~2000倍	収穫前日まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
材コチ ノイ ト	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内

表 2 続き

【カキ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ビ スロイト	アグロスリン水和剤	1000～2000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	テルスター水和剤	1000～2000 倍	収穫 14 日前まで	2 回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2000 倍	収穫 14 日前まで	2 回以内
材ニコノ イト	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	収穫前日まで	3 回以内

【モモ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ビ スロイト	アグロスリン水和剤	2000 倍	収穫前日まで	5 回以内
	テルスター水和剤	1000 倍	収穫 14 日前まで	2 回以内
材ニコノ イト	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	収穫前日まで	3 回以内

【ビワ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ビ スロイト	テルスター水和剤	1000～2000 倍	収穫前日まで	2 回以内

【キウイフルーツ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ビ スロイト	アディオン乳剤	2000 倍	収穫 7 日前まで	5 回以内

【ブドウ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
材ニコノ イト	ダントツ水溶剤	2000～4000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	アルバリン顆粒水溶剤			

※ 登録は平成26年5月20日(火)現在。

※ 農薬を使用する際は、必ずラベルを読んで、使用できる作物であるか、使用濃度、使用量、使用時期は適切か、使用回数は定められた回数を超えていないか等を確認する。